

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大阪はびきの医療センター新病院棟	階数	地上6F
建設地	大阪府羽曳野市はびきの三丁目	構造	S造
用途地域	第1種中高層住居専用地域他域第	平均居住人員	3,443 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年2月 予定	評価の実施日	2020年10月4日
敷地面積	25,500 m ²	作成者	森本忠生
建築面積	7,952 m ²	確認日	2020年12月11日
延床面積	33,714 m ²	確認者	森本忠生



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.5

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.7

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 敷地の高低差を生かした配置計画とし、周囲への圧迫感に配慮した計画とした。緑地を多く設けデッキテラスや病室からも庭の景色や池を眺められるような計画としている。		その他 非常用発電設備を備えている。
Q1 室内環境 化学汚染物質の少ない建材を使用した。	Q2 サービス性能 階高4m以上、天井高2.6m。高齢者に配慮したバリアフリー設計。維持管理、耐久性の良い内外装仕上材。免震層の設置。	Q3 室外環境(敷地内) 南側アプローチ道路にソメイヨシノ等の高木を残置している。植栽を多く使用し、外部道路側だけでなく、室内からも植栽の彩りを楽しめるような空間を形成している。
LR1 エネルギー 複層ガラス、ブラインド等による熱負荷抑制。高効率設備利用による省エネ計画。LED、照度センサーにより消費電力を削減している。	LR2 資源・マテリアル 井水进行处理し、雑用水として利用する為の設備を設けている。節水型便器、自動水栓器具による節水。	LR3 敷地外環境 駐車場の導入路の位置や形状・数への配慮をしている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R2-0122

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	大阪はびきの医療センター新病院建設工事						
	建設地	大阪府羽曳野市はびきの三丁目						
	用途/区分	病院						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						A	
①	CO2削減						3	
②	みどり・ヒート アイランド対策						4	
③	建物の断熱性						5	
④	エネルギー削減						2	
⑤	自然エネルギー直接利用						—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
	エネルギー消費量の報告						報告しない	
【評価項目】								
	項目	評価内容				スコア	評価	
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.3	3	
②	みどり・ヒートアイランド対策							
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				4.0	4	
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価				3.0		
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価				3.0		
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				4.7	5	
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				2.4	2	
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—	
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
その他								
		技術の名称			考慮事項			
	先進的技術の導入							
	特に配慮した事項							